

## 原文

注1の藤原政権を含めて日本列島北方の独自政権とは何をさすのかあいまいで、東北・北海道の歴史に関する記述として、誤解するおそれのある表現である。

日本列島北方(東北地方北部・北海道方面)でも、朝廷や幕府に完全には属さない、独自の政権をつくる動きがあいついだ。アフリカ東岸では12世紀に、

日本列島北方の独自政権 平泉の藤原氏政権(1094～1189)が代表で、日本海北部からオホーツク海、サハリンや千島列島に及ぶ貿易圏の発展を背景に成立した。こうした独自性が失われるのは、江戸幕府とロシアが国境を画定しようとする江戸時代後期のことであった。

## 修正文

日本列島北方では、北海道やさらに遠方の島々・大陸と、本州を結ぶ貿易ネットワークが発展し、13～14世紀になると、北海道を中心にアイヌ文化の形成が進んだ。アフリカ東岸では12世紀に、

日本列島北方の貿易と支配 江戸時代後期になって、アイヌへの支配およびロシアとの国境画定が進む以前は、朝廷や幕府が考える日本の領域は津軽海峡周辺地域までだった。しかしその境界の内外を結ぶ貿易で繁栄する勢力は、平泉の藤原氏はその例である。